

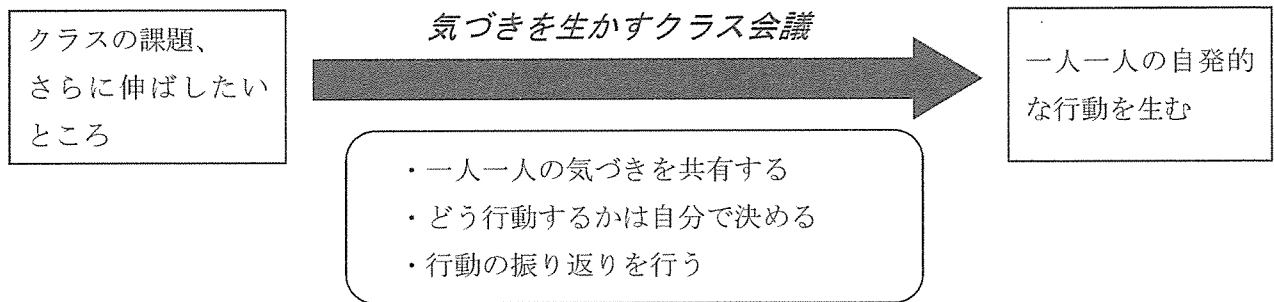
自発的な行動につなげるクラス会議

江南市立布袋北小学校 松井 大樹

1 はじめに

学級をよりよくするために、本学級ではクラス会議を行っている。そこでは、児童がクラスの課題やさらに伸ばしたいところについて話し合い、それをもとに改善策を考えて実行してきた。しかし、改善策を1つにまとめると全員が同じことをするようになり、中には友達任せになって行動しなくなる児童も出てきてしまう。そこで、児童一人一人の気づきを生かすクラス会議を行い、自発的な行動につなげていきたいと考えた。

2 研究の仮説



3 具体的な手立て

- ① クラスの課題やさらに伸ばしたいところについて、一人一人の気づきを板書していき、共有する。
- ② 最終的な改善策を1つに絞らず、クラス会議ではたくさんの選択肢を出していく。
- ③ クラス会議を通して、最終的に自分がどう行動するかは自分で決めるようにする。
- ④ 次のクラス会議で、自分の行動を振り返り、それを仲間に伝える。

4 実践

① 行動の自己決定

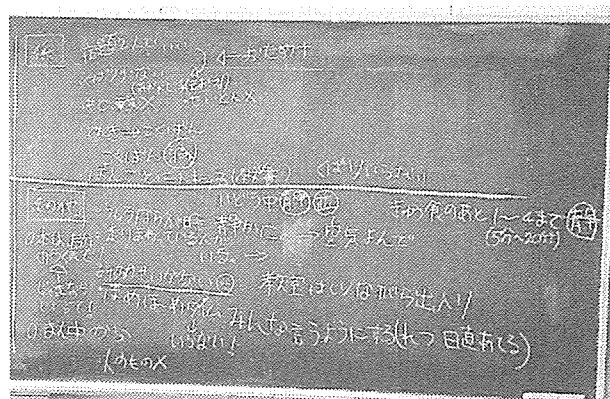
これまでのクラス会議では、話し合いをもとに最終的な改善策を1つにまとめていた。「係活動の仕事量に差ができてしまう」という課題に対しては、「大変な〇〇係の仕事はみんなで分担しよう」といった改善策、「掃除が時間いっぱいまでできていない」という課題に対しては、「班の中で最終チェックをして終わるようにする」といった改善策が出されていた。しかし、これでは話し合いの中で出た貴重な意見が消えてしまう。また、全員が同じことをするようになると、友達任せになってしまう児童も出てきた。

そこで、クラス会議の中では、クラスをよりよくするための改善策を出すまででとどめ、これまでのように1つの改善策にまとめるということをなくした。それぞれが自分には何ができそうかを考え、自分で何をするかを決めるようにしたのである。



図① クラス会議の様子

最初は友達と同じことをしようとしていた児童も、次第に自分で考えて行動する場面が増えた。誰かと同じことをするのではなく、「自分だったらこれをしよう」という考え方が徐々に浸透してきたように感じる。あまり自分からは行動できない児童も、クラス会議での話し合いがヒントになり、黒板を見ながら自分には何ができそうか考える姿も見られた。これまで消えてしまった少数意見がしっかり生きる点も、この実践のよさである。



図② クラス会議での児童の板書

② 行動の振り返り

児童が自己決定して行ったことは、次のクラス会議で振り返りを行った。「どんな気づきがあったか」「実際に行動してどうだったか」を順番に話していく。この振り返りは、自分の行動を振り返るだけでなく、クラスの仲間がどんな行動をしていたかを知ることにもなり、次に自分が行動する際のヒントにもなっていた。以下が実際の児童の発言である。

- ・「給食の準備のときに、当番と委員会が重なっている子がいました。なので、私が当番を代わりにやって、その子には委員会の仕事をやってもらいました。自分もそういう日があるかもしれないので、気づいた人が代わってあげるのは大事だと思います。」
- ・「授業が始まるまでに、次の授業の準備ができていない子がいました。なので、僕は声をかけに行き、準備をしてから友達と話すように言いました。自分も忘れていたことがあるので、気をつけたいと思いました。」
- ・「今回はあまりクラスのために行動できませんでした。みんなの振り返りを聞いて、学級文庫やロッカーの整頓はできそうだったと思ったので、次はそれをやりたいと思います。」

クラス会議を重ねていくうちに、最初はあまり行動できなかった児童も、次第にクラスのために行動できるようになった。振り返りを共有したことで、仲間の気づきを共有できたことが大きい。振り返りの後の話し合いでは、前回のクラス会議からの変化について話し合えるので、児童の中に「もっとこうしていきたい」という気持ちが強くなった。自分たちで考え、自分たちで行動する習慣が自発的な行動につながっていったと考える。

5 おわりに

今回、これまで学級で行ってきたクラス会議に、赤十字のV・S（ボランティア・サービス）の考え方を取り入れた実践を行った。これまでのクラス会議では意見が活発に出ても、なかなか行動につながらない場面が多かったのに対し、一人一人の気づきを大切にしたら、児童が自分で考えてクラスのために行動する姿が見られるようになった。一方で、児童の気づきにも限界があり、なかなか新しい行動が出てこなくなったのも事実である。そこで、教師が気づくための視点を児童に与えることが必要になる。児童に押し付けるのではなく、あくまでも児童自らが気づき、考えて行動できるような支援を今後の課題にしていきたい。